

開花期の年次変動が少ない盆コギクの育成

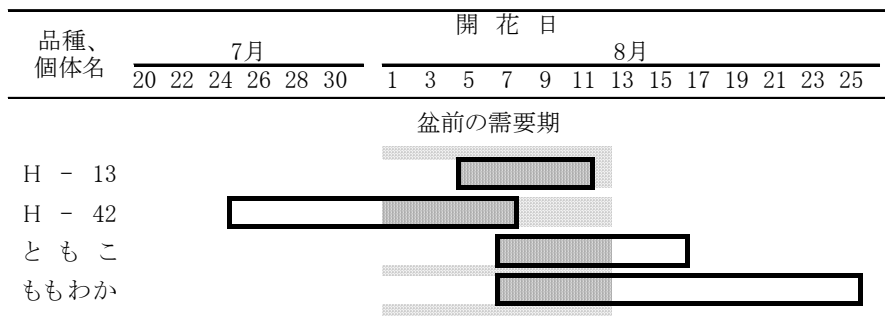
農業総合研究所

要 旨

盆コギクは、開花期の年次変動が大きく、計画生産が難しいため、開花期の安定した品種が望まれる。そこで、「ともこ」と「ももわか」の交雑により、開花期の年次変動が少ない赤系盆コギクを育成した。育成個体「H-13」は、開花期が8月5～11日、草丈はやや高く、花房の形は円錐形であり、「H-42」は開花期が7月下旬～8月上旬、草丈はやや低く、花房の形は平形である。

成果の概要

- ① 平成11年に「ともこ」と「ももわか」の交雑により得られた実生から、開花期の年次変動が少ない「H-13」、「H-42」を選抜した。
- ② 平成13年～16年の開花日の年次変動を調査したところ、3月下旬に挿し木、4月中下旬に定植した場合、「H-13」の開花期は8月5～11日の7日間に集中していた(図1)。また、「H-42」の開花期は7月下旬～8月上旬で安定していた(図1)。
- ③ 「H-13」は、開花時の草丈がおおよそ90cm、花房の形は円錐形であった(図2)。花色は濃赤紫で、高温期における退色は認められなかった。
- ④ 「H-42」は、開花時の草丈がおおよそ80cm、花房の形は平形で、花の数は多く、頂部で咲きボリューム感があつた(図2)。花色は濃赤紫で、高温期における退色は認められなかった。
- ⑤ 「H-13」、「H-42」は既存品種と同様の栽培で良品生産ができる。しかし、「H-13」は、春先の芽立ちが少なく、増殖率が低いいため、既存品種の2倍程度の親株を育成する必要がある。



注)平成13～16年において育成個体および交雑親の80%の株が開花した日に基づき作成した。

図1 育成個体および交雑親の開花日の年次変動



H-13

H-42

ともこ

ももわか

図2 育成個体および交雑親の花房の形

(問合せ先 : Tel. 0771-22-0429)